

## 生徒と保護者と先生の共育ニュースレター

## Growing

June 2016  
Vol. 46  
毎月10日発行

【今福教室】 城東区今福西 2-9-20 TEL.06-6934-4662	【今福第2教室】 城東区今福西 2-16-8 TEL.06-6931-2000
【諸口教室】 鶴見区諸口 4-14-9-1F TEL.06-6912-3984	【関目教室】 城東区関目 4-6-17-2F・3F TEL.06-6934-8117
【今津教室】 鶴見区今津南 1-6-2-1F TEL.06-6167-9722	【古市教室】 城東区古市 3-21-8 TEL.06-6931-0467

第5回教育講演会 新入試問題の傾向と対策  
～親子に必要な「学ぶ努力」と「知る努力」とは

高木 秀章 (塾長)



5月14日(土)、鶴見区民センター小ホールにて、第5回教育講演会を開催いたしました。今回の講師は私、塾長の高木秀章と、統括教室長の小田忠が担当しました。当日は一部の学校が定期テスト前だったり、土曜授業だったり、様々なご事情がある中にも関わらず、200名近くの生徒、保護者の皆様にご参加くださいました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

では、簡単に教育講演会の内容を書かせていただこうと思います。まず、統括教室長の小田から、今年度の入試制度の変更点および入試問題の傾向と対策についてお話しいたしました。上位の学校についてはより本番の入試得点を重視するようになったということ、入試問題は単純な知識を問う問題から「速く読んで理解する力」「理論的・構造的に、作問の意図を理解する力」「自分の意見を論理的に要約する力」等、いわゆる「活用力」を問う問題に変化しつつあるということ、今年度の入試問題を例にご説明いたしました。一部のみの抜粋ではありましたが、入試問題のレベルの高さには一様に驚かれています様子でした。入試問題の変化を実感していただけたのではないかと思います。

また、今後の入試問題の動向について、東京の進学指導重点校の問題を取り上げ、大阪の入試問題もおそらくこういった内容や形式に近づいていくのではと予測を述べました。

そこで、変化する入試問題に対応するためにご家庭で取り組めることとして、①ニュースを理解する、②新聞の社説を読む、③日記をつける、④英語で日記をつける、の4つを挙げました。大切なのは、こうした「活用力」を伸ばすには、「文章を読み、自分の意見とその論拠を述べる力」が必要です。皆さんが最も苦手なこともかもしれませんが、書いたものを教室に持ってきてもらえれば、添削やアドバイスを行いますので、ご家庭で少しずつでも取り組まれてはいかがでしょうか。もちろん教室でも、様々な取り組みを行っています。

次に私の方から、「親子ですべき『知る努力』『学ぶ努力』」と題して、40分ほど次のような流れでお話いたしました。

## 1. なぜ「知る努力」「学ぶ努力」が必要なのか

受験制度が大きく変わっていきます。それはグローバル化やAIなど科学技術の進歩による、社会の急激な変化に対応していくため。そんな中で将来子供が社会の中を生き抜くためには、まず親も子供の将来についてきちんと学んでいくことが重要です。子供はまだ半人前。将来を決められるだけの知識や経験が不足しています。ですから親が進路のアドバイスや取捨選択をしてほしいと思います。そして最終的には子供に決めさせるようにしてください。

## 2. 親が知り、学ばなければならないこと

もしも受験という制度がこの国になかったら、子供の将来を決めるのは、受験のない国や歴史が物語るように、家柄と親の経済力です。しかし受験によってすべての子にチャンスが与えられています。皆さんは何にでもなれる!カイチの先生が厳しく指導するのは、チャンスを逃してほしくないから。もちろん合格、不合格があるのが受験です。しかし、入試の合否で人生は決まりません。人生を決めるのは学歴ではなく、

「自制心」と「やり抜く力」。受験を通して身に付く「努力と工夫を続ける姿勢」は社会で逞しく生きる力となります。

親が知り、なすべき事は①入試制度を知り、活用すること。②高校フェアに参加し、情報収集すること。③子供達を陰から支えること。この3点です。③については、親が子供を一人の人間として認め、話を聞き、人生の先輩としてアドバイスを与え示唆することで、子供は気付きを得て、自分で判断する力を身に付けていきます。思春期の子と向き合うのは大変ですが、愛情と覚悟を持って接してあげてください。

更に、是非してほしいこととして挙げたのは、④親子で時間を作り、進路について話すことです。改めて親子で話し合うことは、できそうできないことです。そこで、子供達が進路を意識するタイミングである、中1の入学時、中2の夏過ぎ、中3の1学期中間テスト後に、機会を設けるのがお勧めです。

## 3. 子供が知り、学ばなければならないこと

まずは入試制度をよく知ること。一番重要なテストは10月の大阪市統一テストと、11月の実力テストや模試。併願または専願の私立高校が決まり、本命の公立高校もある程度決まるため、そこに照準を合わせて学習を進めていきましょう。並行して、志望校を自分で探すこと。親や学校、塾と相談しながら構いませんが、あくまでも自分で決めることです。オープンスクール、学校説明会に積極的に参加しましょう。親と一緒に行くのもいいですが、一人だけで参加するのも効果的です。そうやって志望校への強い「憧れ」を持つことが、合格可能性をグンと引き上げます。志望校が決まれば、過去問を入手して解いてみる。今の時点で解けない問題が多いですが、チャレンジすることで「ここまで深く聞かれるのか」「時間が足りない」など、様々な気付きが得られ、頭の基準が切り替わります。早い段階で自分と志望校との差を知ることが重要です。

そして、将来のイメージを作ること。そのために親の仕事の話を聞いてみることで。仕事内容、必要な能力、取り巻く環境など、具体的に聞くことで、自分の夢や希望、進路について考えるきっかけになります。

そして、先生から生徒のみんなに「将来どのような大人になりたいですか?」という宿題を皆さんに出しました。高校受験は将来の進路の入り口。将来を自分なりにイメージして進路について考え、高校入試に取り組んで欲しいと思います。

## 4. 最後に

子供は「学ぶ努力」「知る努力」を続けることで大人に近づいていきます。大人は様々なことを自分の意思で選択でき、行きたいところに行けて、なりたい者になれる。未来を自分の手で作ることができるのです。

そんな思春期を迎え自立に向かう我が子に対し、親ができることは何か。愛情を持って見守り、時には示唆を与え、時には壁となって立ちふさがることも必要でしょう。子供に最後まで寄り添ってあげられるのは親しかいません。子供を絶対的に信頼し、見守り続けるという意味において、「愛情」にも努力と覚悟が必要です。見守られているという安心感があるからこそ、子供は将来に希望を描き、外の世界に飛び立つことができるのです。子供の将来と進路について「学ぶ努力」「知る努力」を続けることで、希望に満ちた将来をつかんでほしいと願っています。

お話しした内容は以上となります。

会場では、保護者の方や生徒本人も一生懸命メモをとっている姿が見られ、また、アンケートには「これからもっと子供と向き合っていきたい」「私が普段言いたいことを、代弁してくれた」など、うれしいコメントもいただきました。今後も教育に関する的確な情報を提供していきたいと思えます。

なお、内容をDVDに収録し、ご希望の方にお渡しできるようにしますので、お申し出ください。



## CLASSROOM REPORT 教室レポート

# みんなの温かさに、 日々の指導で応えます!

熊谷 周作 (今津教室)



昨年度までは関目教室で指導を担当してまいりましたが、今年度からは今津教室と今福教室で指導にあたることになりました。あまり接したことのない生徒達が大半という中でのスタート。特に今津教室では、今まで指導したことがなかったので、3月、4月は緊張が続く毎日でした。

そんな時に、私事ではありますが、第2子が生まれ、教室長の岡本先生や、生徒のみんなから色紙をいただきました。クラスを受け持って間もない自分の為に、このような気遣い、本当にうれしく思いました。そして、生徒みんなのために今まで以上に頑張らなければと改めて心に誓いました。今ではすっかり打ち解けて楽しく、指導させてもらっています。

## <小学部>

今年から英語の授業が始まりました。みんな最初はドキドキしながら、ついていけるのか!?など、心配している様子の生徒がたくさんいました。しかし、今は違います。毎回リスニングを行い、その後スピーキングを行うのですが、みんな大きな声を出しながら、発音をしています。単語の意味を覚えていない生徒もたくさんいると思うのですが、しっかりと声出しをし、質問にもきちんと答えてくれます。また、以前学習したものを英語で質問をしても、きちんと答える生徒もいます。少し前にも、“Where are you from?”と尋ねると、“I'm from Osaka.”と元気に返してくれました。少しでも身につけてくれたらという思いで始めた英語ですが、楽しみながら、学習している姿を見ると、もっともっと身に付けられるのではないだろうか?と考えてしまいます。良い方法が見つければ、すぐに皆様に紹介したいと思います。英語だけでなく、小学生の診断テストでは、みんな上位者表に名前を載せようと、必死で勉強しています。4月末の診断テストの直前に、どれくらいテスト勉強をしたのかを尋ねると、予想問題を解き、やり直しをし、国語の漢字・文法を勉強するというのももちろんのことですが、それ以外にも、各教科のワークの空いているところを全て解き、付属のテストを何度も練習し、社会などは自分でノートにまとめている生徒もいました。こうして、自分で考え診断テストの勉強に取り組んでいる姿勢をみると、カイチの小学生のシステムは本当に良くできていると改めて思います。また、それに取り組もうとする生徒の姿は、何よりも輝いており、必死で頑張っている子供達の顔は、イキイキとしており、本当に塾に来るのが楽しそうに感じます。

## <中学部>

集団クラスも、個別クラスの生徒も勉強に対して、真摯に向き合い学習に励んでいます。わからない所は何度も質問をし、わかるようになるまで何度も質問をします。これは当たり前のことではありますが、その当たり前の事をどの生徒も実践できていることが、素晴らしいと思います。また、ただ単に勉強しにくるだけではなく、勉強しながらも茶目っ気たっぷりに、私生活のことを質問してきたり、難問をみんなで考えたりすることもあり、和気藹々とした雰囲気は教室にはあります。しかし、勉強に対しては本当に頑張り屋さんが多く、このGrowingの記事が皆様の手に届く頃には、1学期中間テストの結果が返ってきている頃だと思っていますが、過去最高点が何人出るとか楽しみながら、みんな必死でテスト勉強を頑張っています。特に、この春から教室に通い始めた新入生達の成績がどのような結果になるのか楽しみに思います。

さて、こんな今津教室ですが、これも全て、生徒一人一人のことを把握して、生徒全体、教室全体の手綱を握り、細かく指示を出してくれる教室長の岡本先生あってのことだと思います。私自身も、新しい環境で、いろいろと勉強になることが多く、もっと力になれるように研鑽しなければと感じます。

この教室からトップ校合格を勝ち取った生徒がいるように、今年もトップ校を狙えそうな生徒が昨年以上にいるように思います。今津教室で過去最高の実績を残せるように、日々の指導を丁寧に行い、結果を出していけるように、頑張っていきたいと考えています。





# Education



KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育

## 春の遠足

## ユートピアささやまに行ってきました!

坪田 陽一 (諸口教室)



4月24日の日曜日はカイチ恒例の遠足でした。今回は兵庫県篠山市の「ユートピアささやま」が目的地です。総勢163名の子供達+引率の先生達が、バス4台に分乗して大阪を出発。途中トイレ休憩をはさみつつ、2時間かけてようやくたどり着きました。

着いたらすぐに広場へ移動し、オリエンテーリングのスタート! 班に分かれて、地図に示された9つのポイントを探し出し、それぞれで出されたクイズに答えていきます。全てに答えたら塾長の元へ。そこで合言葉を言うことでめでたくゴールとなります。

私は諸口教室の年長~小4の男子の班を引率しました。ただ回るだけでは低学年の子が活躍できないと思い、ポイント毎に探すリーダーを決め、その子にポイント探しを任せることに。すると、たとえ年長であっても、リーダーとして先頭に立ち、率先して探してくれるようになりました。クイズについては「西瓜」「秋桜」「紫陽花」などの漢字の読みを問うものから、「畑の肉(と呼

ばれている野菜)」「ドラえものの誕生日」などといったものまで様々。低学年の子達にとっては少々難しいため、ヒントを出しながら答えてもらい、その時のリーダーに答えを記録させました。1時間歩きっぱなしでヘトヘトになりましたが、みんな弱音を吐くこともなく、最後までやり切ってくれました。素晴らしい!

オリエンテーリング終了後は昼食。愛情のこもったお弁当でエネルギーを充填したら、いよいよドッジボール大会です。進行役の高木先生が「各教室の誇りと名誉をかけた戦いだ!」などと煽ったおかげで、かなりの盛り上がり。低学年の部と高学年の部に分かれ、ブロックごとにリーグ戦を行い、上位のチームが決勝トーナメントに進んで順位を決定するわけですが、どこも白熱した試合展開となりました。特に高学年では勝敗が拮抗してしまい、監督の先生同士のジャンケンで勝敗を決定したところも。ともあれ、塾では普段顔を合わせない子供達同

士が、同じ教室のチームとして、声をかけあい一体となって戦う姿は、とても新鮮でした。ドッジボールが苦手な子や嫌いな子もいたと思いますが、そんな子達もボールをよけたりキャッチしたり、チームの勝利のために一生懸命でした。

結果は、低学年も高学年も今年は古市教室が優勝、我が諸口教室も人数が少ない中でよく健闘し、低学年の部で2位、高学年の部で3位となりました。

その後、来たときと同じバスに乗り込み、帰途についたわけですが、道路事情により1時間ほど教室への到着が遅れてしまいました。保護者の皆様にはご迷惑をおかけしてしまいましたが、どの子も大きな怪我もなく無事に帰ってくる事ができたことは本当によかったと思います。

オリエンテーリングやドッジボールなど、この遠足の中で一つでも多く「できた!」と思える経験をし、子供達一人一人が自信を育むことができたかと願っています。

## COLUMN: 先生紹介 ▶ 塩崎 弘子 (今福個別クラス)



初めまして、個別クラスを担当しています塩崎弘子です！私も五年前はカイチの生徒でした。中学生の頃、私は毎回の定期テストに100%の努力を注いで

いました。三週間前にスケジュールシートを書き、学校のワーク、カイチのワークのテスト

範囲の全ページを解き切ってからテストに臨みました。テスト前日の夜ご飯は頭がよく働くと聞いたので白身魚にして！と頼んだりもしました。おかげで一度、499点をとった伝説を持っています。(笑)

そして一年前には大学受験に挑みました。高校受験と比にならない1年間で、寝る、食べる、トイレ、勉強しかない毎を送りました。

さて、皆さんは自分が出る100%の努力をしてからテストに挑んでいますか？様々な理由を並べてラクしていませんか？勉強はやるうと思えばいつでもできます。電車の中、待ち合わせの間、ドライバーをしている時にも

単語帳は開けません。勉強は確かにしんどいものです。しかし、本気で努力した経験は何にも勝る財産になり、将来皆さんを必ず助けてくれます。私が大学受験を乗り越えたのも過去の努力が自信になっていたからです。もちろん努力が必ず実るとは限りません。私は第一志望の大学に合格することはできませんでした。しかし、後悔は全くありません。なぜなら、私は100%いや、120%の努力をしていたからです。もうあれ以上は無理だということまで自分を追い込んだからです。

皆さんは本気で勉強したことがありますか？「未来」の自分のために「今」努力をすることを大切にしてほしいと思います。



川西の  
ちょっと

TEACHER'S VOICE

イイ話

川西 久志 (今福教室)

## スポーツは学力も向上させる

すっかり暖かくなってきた今日この頃、運動部の皆さんは部活動が盛んになってきたのではないのでしょうか。そこで、スポーツが勉強に及ぼす影響について話したいと思います。スポーツと勉強にどんな関係があるの？と思われる方はぜひともご一読ください。

「スポーツと勉強は使用される脳の部分が実は重複している」

例えば、野球でスイングの方法を習い、それを素振りや反復練習して体で覚えること、勉強で九九を習い、同じく反復練習して頭で覚えることは、脳に記憶させるという点では特に違いはありません。むしろスポーツで体を動かした方が脳は活性化します。ですから勉強をする前に5分間の軽い運動をやってみてはいかがでしょうか？科学的には何もしないで机に向かうよりも効果が出るようです。私自身、勉強とスポーツはどこかでつながっていると考えていましたが、あくまで精神的な部分にとどまると思っていたので、びっくりしました。

「運動部の入部率が高い学校は受験校の偏差値も高い」

平成19年文部科学省学校基本調査によると、運動部が盛んな学校は成績優秀者も多いという結果が出ています。これはなぜかという

と、運動をすることにより、脳の色々な部分が刺激され、脳の発達を助けるという働きがあるからです。また、スポーツそのものには普段学校で習う主要教科のエッセンスが入っています。野球を例にとるならば、体の動かし方だけではなく、チーム打率ならば数学の確率、風の強い日はボールが流れるので風力や風向きの分析は理科、ルールを守るという倫理観は社会等、練習や試合でかなり膨大な計算や分析、記憶、判断をしています。上記は一例で、実際はもっと多くの分野を使用します。スポーツをやっている皆さんは無意識にやっていることとなります。脳が発達するのも当然だとは思いませんか？さらに競技力と学力の向上の過程も似ていて、例えば、体の動かし方や、タイミングの取り方は、自分が理解して身に付くまで反復練習をする。うまくいかなければ監督に聞く。勉強も、教えてもらったことが身に付くまで、何度も書いてみる。わからないところはわかるまで先生に質問する。やり方が同じです。スポーツも勉強も脳が行うものなので、その根幹部分は同じだということです。

「ジョギングの科学的効果」

脳科学の研究では、ジョギング中に前頭前野が特に活性化することが明らかになっています。前頭前野とは思考や創造性を担う脳の最高中枢であると考えられている部位で人に

とっては最も重要な部分の一つです。まっすぐ走るだけではなく、後ろ向きに走ることやジグザグに走ったりすることで、一層活性化が進むことが分かっています。誰でもできるジョギングですが、脳には重要な影響を与えるのです。

いかがでしたでしょうか。運動部の皆さんは日々部活に精を出していると思いますが、脳にとってはとても良いことをしていると、この記事を読んで感じていただければと思います。また、競技力向上のためにも勉強は欠かせません。部活中に普段から学校や塾で習っている知識を使うように意識してみればいかがでしょうか？与えられた知識ややり方を実際に意識して使ってみることで、学力・競技力ともに向上するに違いありません。一度試してみてください。

## &lt;参考文献&gt;



『スポーツのできる子どもは勉強もできる』

幻冬舎新書

カイチからの  
お知らせ

- 6月9日(木)~14日(火)で期末模擬テストを教室毎に実施します。予想問題でしっかり学習しておきましょう。
- 6月25日(土)は中学生対象で9時間自習を13時~22時で行います。定期テストまで最後の追い込み、みんなで頑張りましょう。
- 6月25日(土)は珠算上級検定の直前練習です。時間は各教室内で告知します。
- 6月26日(日)は珠算上級検定です。合格目指して、しっかり練習しよう！